



Album Title : Texas Tornadoes
Artist : Texas Tornadoes
Label : Reprise
Release Date : August 1990

サンフランシスコで見つけたメキシコの国境の音楽

1980年代、音楽が機械的なビデオゲームみたいなリズムになり、メロディーがMTVに出ているニューロマンティック風のヘアスタイルほどパーフェクトで停滞している時、僕はその音楽の世界から避難する場所を、サンフランシスコにある小さいメキシカンレストランで見つけた。その店の名はラ・テラザ。

僕が住んでいたサンフランシスコのエリアは、白人の老人達とゲイのカップルが住んでいたグレン・パークという街だった。だがその丘にあった家から坂を下ると、別の世界があった。それはミッション・ストリート。右に行くとブルーカラーの世界、左に行くとメキシコ街。そのメキシコ街にこの店があった。外壁には大きな赤いネオンの看板が掲げられ、『ラ・テラザ、メキシカンフードアンドバー』と書かれていた。そして下の小さな看板には、毎週金曜と土曜にはライブミュージックがあると書いてあった。

僕はメキシコ料理が好きで、ある平日の夜に一人で入ってみた。ドアをあけると、そこはまるでメキシコだった。バーテンと客は全員メキシコ人。長いバーカウンターが入り口から奥まで続いていた。座ってみると、背中には低い壁、反対側の壁は黒く塗られていて、その上はブラックライトのペンキでメキシコの田舎の風景が書かれていた。そしてホームセンターで売ってそうな安っぽいプラスチックのテーブルが10台ぐらいあり、その上にはやはりプラスチックのテーブルクロスがかかっていた。どうみてもバーゲンのセットだ。

バーに座り、僕はビールを頼んだ。『コロナ、プリーズ！』バーテンは僕の顔を見ないでコロナを出し、\$2.50を請求した。辺りを見回すと、驚くことに、その店でコロナを飲んでいるのは僕しかいなかった。他の客は皆バドワイザーを飲んでいて。アメリカに仕事をしにきているんだから、彼らはわざわざメキシコのビールを頼んだりなんかしない。

誰も僕には声をかけなかった。次に来たらバドワイザーを飲

もうと決心し、僕はその店に通い続けたが、誰も僕には声をかけないし、バーテンさえ声をかけなかった。それでも僕はその店の雰囲気が入っていて、しょっちゅうその店でビールを飲んでいて。とくに週末はライブをよく見に行った。演奏していた音楽のジャンルはコンフント。メキシコとアメリカの国境の音楽だ。メインの楽器はアコーディオンで、あとはドラムとベース。もちろん歌はスペイン語だ。バンドが始まると男性の客は少ない女性達に声をかけて、踊り始める。僕が聞いたこともないようなポルカとロックが混ざった音楽で、その客達は踊っていた。僕はレコード屋に行って何枚かコンフントのアーティストを聞いたが、その時は買うには至らなかった。エリック・クラプトンやビートルズ、ローリング・ストーンズ達がカバーしているブルースのオリジナル曲を初めて聞いたときと同じように、コンフントは僕にとってプリミティブ過ぎた。コアな音楽過ぎて、受け付けられなかったんだ。

しかしその何年か後、このアルバム『テキサス・トルネードス』を聞いた時は、思いを新たにされた。コンフントのテイストも、ロックのテイストもたっぷりで、これなら聞けると思った。英語の曲もあって、わかりやすくなっていた。今はもう、古いブルースを聞けるようになったのと同じで、このアルバムをよく聴いたおかげでオリジナルのコンフントも少し身近になった。

『テキサス・トルネードス』を聞くとあのサンフランシスコにあったメキシカンの世界を思い出す。その店に通いはじめて2年ぐらい経ったある大晦日の晩、一人で店に入ると、初めてバーテンから僕に声をかけてくれた。『ブエノスノチェス！』と言って、彼は僕に握手するために手を出した。初めて笑いながら、メキシコ人達が使う握手を教えてくれた。3段階に分かれて手を握り、最後に拳を合わせるんだ。やっと僕を仲間にしてくれた。あのときはすごく嬉しかったよ。★

PROFILE ジョージ・カックル◎ 1956年鎌倉生まれ。日本人で日本舞踊の師匠の母とアメリカ人でヨットマンの父を持ち幼少時代を日本・テキサス・韓国で過ごす。小学3年生でビートルズに開眼。LAで有名なサーフポイントでの初サーフィン体験。この原体験が彼のその後の人生を決定付ける。日本での学生生活の後、憧れのインドをはじめ世界を放浪し、ハワイ経由でサンフランシスコに移り住み18年間波乗り明け暮れた。1995年帰国後、生まれ故郷鎌倉へ音楽マネージメント&制作会社を立ち上げ、日本のミュージックシーンにbabamaniaなどを輩出。音楽プロデューサー、コラムニスト、作詞家(マッドカプセルマーケット、阿川泰子など)として、2006年の8月には子供の英語・音楽教育用の本『ウクレレ・マミー・アンド・ミー』を出版。古今東西の音楽と文化と人間臭さをこよなく愛し日本と世界を結ぶ架け橋になりたいと願い、今日もポップ・マリーーを聞きながらサーファーとしても多忙な日々を送っている。現在、インター FM (76.1) 毎週日曜日、9:00 ~ 13:00 レイジーサンデーを担当。

SHONAN BEACH FM 78.9 STARLIGHT CRUISING Thursday 8-10pm